

男鹿工、金足農準決勝へ

第102回全国高校ラグビー大会県予選が16日、秋田市のあきぎんスタジアムで開幕し、1回戦2試合を行った。第4シードの男鹿工は大館鳳鳴・大館桂桜・能代科技の合同チームに64-0、第3シードの金足農は秋田に52-0でいずれも大勝し、22日の準決勝に進んだ。(富樫幸恵)



〈第1日〉

工は大館鳳鳴・大館桂桜・能代科技の合同チームに64-0、第3シードの金足農は秋田に52-0でいずれも大勝し、22日の準決勝に進んだ。(富樫幸恵)

には至らなかった。

3校合同、充実感にじむ

大館鳳鳴・大館桂桜・能代科技は相手のペナルティーを誘い好機をつくつたが、得点はなかった。

○…大館鳳鳴、大館桂桜、能代科技は昨年に続き合同チームで出場した。トライを奪つことはできなかったが、最後まで気持ちを切らさず前に出続けた。山本武虎(大館鳳鳴3年)はこのメンバーで戦えて本当に楽しかったと充実感をにじませた。

▽1回戦
男鹿工 64(26)38-0(0)0
大館鳳鳴 0000
大館桂桜 0000
能代科技 0000
TGP前 43026
TGP後 64計
55138
男鹿工
▽反則 男7、大2▽30分ハーフ
▽キックオフ 大館鳳鳴・大館桂桜・能代科技▽レフエリ 樋渡

田沼木真山 凌野 瀨浦 石勇 本井 琥屋 原 橋 高 原 三 明 高 杉 細 高 小 原 麻 高 関 菅 小 一 三 明 高 杉 細 高 小
【男鹿工】FW HB TB FB
【合同】FW HB TB FB
【大館鳳鳴】FW HB TB FB
【大館桂桜】FW HB TB FB
【能代科技】FW HB TB FB
中田田口子木 谷藤松本 藤腰良沢村
田山澤山 金鈴石 斉高山 佐宮奈柳野
▽交代【男】菅原功(菅原俊 佐川(関山) 加藤(原田) 林(小野) 長谷川(高橋勇) 【合】成田(金子) 秋元(柳沢) 小玉(秋元) 熊谷(山口)

3校が合同練習をするようになったのは2年前の冬。大館鳳鳴、大館桂桜は以前から合同で練習しており、部員が減った能代科技が加わった。3校そろって練習できるのはほぼ土日のみ。学校で一緒に過ごす時間もないため打ち解けるのに時間がかかったというが、花園を目指すチームメイトとして練習を重ねるうち、自然と結束が高まった。後半、残り時間が少なくな

【男鹿工―大館鳳鳴・大館桂桜・能代科技】後半3分、インゴールに走り込みトライを決める男鹿工の細井



い試合ができた」と振り返った。

ると、山本主将が声を張り上げチームを引っ張った。「最終合って他に負けないチーム後までチームの心が折れないようにすることを一番に考えよう」と。能代科技の主将佐藤

▽1回戦
金足農 52(24)28-0(0)0
秋田 0000
TGP前 44028
TGP後 52計
44028

金足農は前半2分、敵陣でモールを押し込み村井がトライを決めると、その後もゴール付近の密集を起点に得点を重ねた。後半は左右に展開して守備を突破し、トライにつなげた。秋田は守備で粘りを見せ、相手のミスから攻撃の糸口をつかみかけたが、勢いを止められなかった。

藤頼唯(3年)は「3校が協力し合って他に負けないチームになった」、大館桂桜の主将鈴木恒真(2年)は「チャンスを攻めることができた。い

悠間元鳴村 藤黒藤 塩田賀藤部 藤田 関 泉藤 佐下木高 伊目加 佐和和工渡 佐々木(村井) 【秋】佐藤一(工藤)

秋田工—秋田中央 30日決勝



全国高校
ラグビー
県予選

〈第2日〉

第102回全国高校ラグビー大会県予選第2日は22日、秋田市のあきぎんスタジアムで準決勝を行った。秋田工が男鹿工を54-15で下し、秋田中央が金足農を40-7で退けた。全国大会出場を懸けた秋田工—秋田中央の決勝は、30日午後2時35分から同スタジアムで行う。(富樫幸恵)

秋田工81、男鹿工圧倒

▽準決勝

| | | | | |
|-------|-------|--------|-----|-----|
| 秋田工 | 54 | (2133) | 5 | 男鹿工 |
| 1005 | 0000 | | | |
| TGP前 | TGP後 | | | |
| 54033 | 33021 | | 54計 | 5 |

秋田工 秋5、男10▽30分ハーフ
▽反則 秋5、男10▽30分ハーフ
▽キックオフ 秋田工▽レフエリ
1 石田

秋田工は前半1分、左へ抜けて出した佐藤諒が先制トライ。28、30分には立て続けにラインアウトから押し込むなど、前半だけで5トライを決めた。後半は密集からの展開

秋田工は前半1分、左へ抜けて出した佐藤諒が先制トライ。28、30分には立て続けにラインアウトから押し込むなど、前半だけで5トライを決めた。後半は密集からの展開

田沼木真山、渡野瀬浦石男、井坂屋原、橋原、橋本、橋玉、原菅麻高、関菅小一、三原高杉、細高小、秋田工FW、HB、TB、FB、皆林部美諒、巧慶、井瀬、藤森、橋生、澤、草小阿、宇佐三、筒鈴、工金高、菅黒、▽交代【秋】古仲(金巻)、鈴木楓(菅皆)、伊藤蓮(小林、佐々木、阿部)、伊藤朔(筒井)、大原(菅生)、宮城(宇佐美)、伊東(佐藤諒)、徳原(高橋)、安田(黒澤)【男】菅原功(関山)

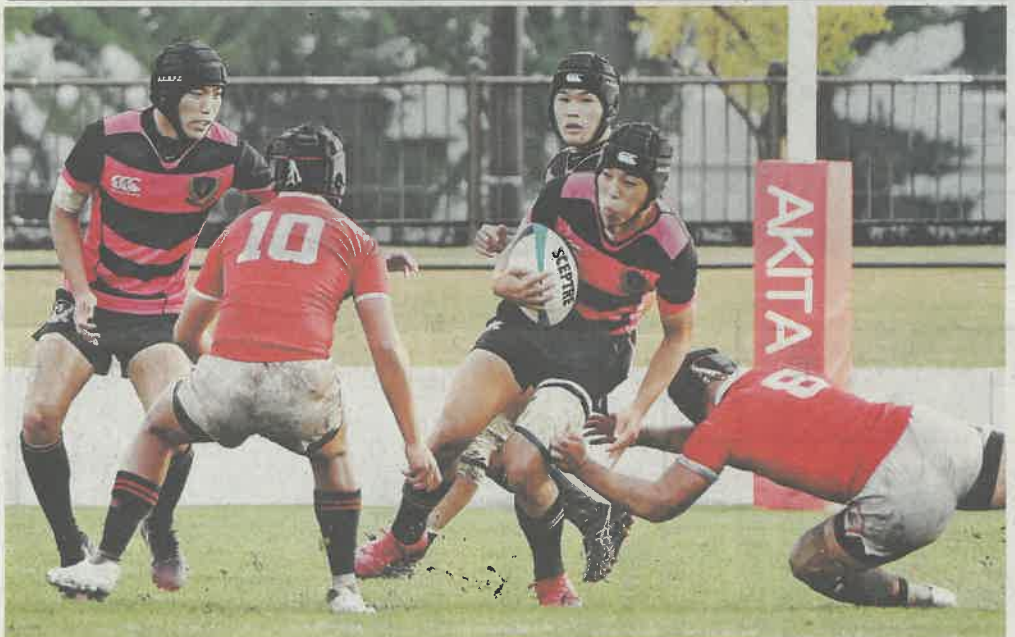
「指導に感謝攻め貫く」
男鹿工は再三ゴール前に迫ったが、1トライに終わった。明石逸世主将は、本年度で定年を迎える近藤周平監督に「良い結果を届けられなかった」と唇をかんだ。明石は、試合前の円陣で近藤監督への思いも込め、「支えてもらった人たちに感謝を伝えよう」と声をかけた。チ

雨にも負けずFW奮闘
○…秋田工は悪天候の前半、FW陣が奮闘した。雨でボールが滑りミスにつながりやすいとして、展開ラグビーを極力抑え、スクラムやラインアウトモールから得点を重ねた。伊東真吾監督は「FW陣が踏ん張ってくれた」とた

キャッチミスなどから思うように攻撃につながらない時間もあったが、鈴木楓太主将は「自分たちのテンポで落ちていこう」と声をかけ、チームの集中を保った。強風の中、自身も精度の高いキックでゴールを決め、勝利を引き寄せた。
決勝の相手はFWが強力な秋田中央。鈴木楓は「どんな場面でも圧倒して勝ちたい」と意気込んだ。

1ムは近藤監督の教え通りを取られたりと及ばなかった。愚直に前進を続け、敵陣へ攻め込んだ。しかし、ディフェンスに阻まれたり反則監督は試合中、大声でけきを飛ばし続けたが、最後は「選手は頑張った方かな」とねぎらった。

中央、金足農寄せ付けず



▽準決勝

| | | | | |
|-------|-------|--------|-----|-----|
| 秋田中央 | 40 | (2119) | 7 | 金足農 |
| 0000 | 1107 | | | |
| TGP前 | TGP後 | | | |
| 32019 | 33021 | | 40計 | 7 |

秋田中央 秋8、金7▽30分ハーフ
▽反則 秋8、秋田中央▽レフエリ 1 松橋

秋田中央は接点で強さを発揮し、トライを重ね、金足農に主導権を握らせなかった。前半7分、秋田中央は相手のノックオンから齊藤が走り込み先制トライを決めた。14分にはスクラムから展開しトライ。23分にはモールを押し込んだ。後半もラックから展開したりモールを押し込んだりして突き放した。

陣地進めるキック徹底
○…秋田中央は、前に出る守備で金足農の攻撃を止めた。吉谷和義監督は「全員が積極的に前に出てタックルできていた」と勝因を語った。

さすタックル。守備の時間帯でも前進を意識し、相手との接点があればFW陣が押し込んだ。佐々木幹太主将は「FWが踏ん張り、BKがキックで陣地を進めるという自分たちの形に持ち込むことができた」と納得の表情。秋田工との決勝に向け、「能力の高い選手がそろそろ相手。今日のようにFW、BK一体で戦いたい」と見据えた。

【秋田中央—金足農】後半、突破を図る秋田中央の江島

田田坂大原、田井森、谷藤、井橋、田野、和安、小菅、薄阿村、栗泉、佐石、高武、小【金足農】FW、HB、TB、FB

秋田工、70度目花園へ

5トライ、中央に33-15



〈最終日〉

第102回全国高校ラグビー大会予選最終日は30日、秋田市のおきぎんスタジアムで決勝を行い、秋田工が秋田中央に33-15で勝利し、3年連続61度目の頂点に立った。秋田工は後半、

▽決勝

秋田工 33 (1914-78) 15 秋田中央
秋田中央 1018 1107
TGP前 TGP後
秋田工 22014 32019 33計15
▽反則 エ7、中7▽30分ハーフ▽キックオフ 秋田工▽レフェリー 新井



【秋田工—秋田中央】後半16分、秋田工のWTB菅生がゴール左にトライを決める

持ち味の素早いパスで展開し、3トライを決めて引き離した。最多の70度目の出場となる全国大会は12月27日、東大阪市の花園ラグビー場で開幕する。

秋田工が決定力で上回り、懸命な守備で食らい付く秋田中央を突き放した。

前半6分、敵陣ラインアウトで崩れたモールから大外に展開し、WTB菅生が先制トライ。26分にもS日伊藤大の技ありのキックパスが決まり得点し、14-8で折り返した。

後半は自陣でしのぐ時間が続いたが、幅を広く使った攻撃で相手を揺さぶり、好機をBK陣が仕留めて10分、16分に加点。28分にはFW戦で押し込まれて得点を許したが、34分に再び展開力を発揮して

原部松内田井浦藤山木口畠野内藤 柏戸小寺藤石三進富佐谷江小竹齊
秋田工 FW HB TB FB
秋田中央 FW HB TB FB
皆瀬部諒島沢慶颯大颯藤森橋生澤 浦藤 浦藤藤木
草三阿佐小大三伊鈴工金高菅黒 浦藤 浦藤藤木
▽交代【中】加賀谷(江島) 門間(谷口) 秋山(石井)

トライを決め、勝負を決定付けた。

秋田中央はセットプレーやFWの連続攻撃から反撃したが、届かなかった。

気迫の守備も実らず

○：ゴールラインを背負ったの守備には迫力があつた。ナンバー8進藤優弥(3年)は「前に出ることを意識して頑張ってきた」と誇る守備で相手の攻撃を阻み続けたが、

連続攻撃で突き放す

3年連続 61度目の優勝 秋田工

相手の強烈なタックルに苦戦しながらも、後半に速い連続攻撃を仕掛けて突き放した。伊東真吾監督は「普段から厳しい場面を想定した練習をしてきたことで、苦しい中でも力を出せた」と選手たちを褒めた。

前半は秋田中央の堅い守備に攻撃を止められ、流れるような展開とはならなかった。鈴木颯太主将(3年)は「勝って花園へ行くことが第一。受け身にならず、仕掛けて行く」とチー

ムで意識を統一した」と言う。6点差で迎えた後半10分、パスがつながり、菅生聖弥(3年)にボールが渡ると、軽快なステップで相手をかわしてトライ。チームを勢いづけた。

菅生は全5トライ中4本を決める活躍。2年時からWTBとして主力を担うが、昨年の全国大会では自分に回ってきたパスをトライにつなげられず悔しさを味わった。3年生になり、自分が決めるという責任感が増し、相手守備をかわすステップワークも特訓。

「練習を重ねて自分が一番速い、守備を抜けるという自信があった」と胸を張る。チームは全国大会最多出場、最多優勝を誇るが、昨



相手を振り切ってインゴールに飛び込む秋田中央の齊藤(左)

ゴール前で悔やんだ。

最後は展開攻撃で決められ、悔し涙をのんだ。前半、反則で自陣に押し込まれながらも、粘り強くモールを阻止。FWのサイド攻撃も機能させなかった。最後は進藤がボールに絡んで相手の反則を獲得。「ボールへの狙いは常に持ち続けていた」と会心の守備で食らい付いた。失点につながったのは中盤のエリア、特に攻めているボ

(鎌田秀平)

つと先輩たちに並べた。全国で勝ち抜けるように残りの時間でさらにレベルアップしていく」と気を引き締めた。

(富樫幸恵)



3年連続61度目の優勝を飾った秋田工

栄光